

令和六年度は、予定通りに総会、研修会、学習会、さらに体験教室と活動を行うことができました。ありがとうございました。

長善館主の文臺先生が亡くなつたのが、明治三年六月十七日であります。江戸の終わりから明治の始めは混乱の時代でした。慶応三年十月に将軍慶喜が大政奉還をして、戊辰戦争が起ります。翌年の慶応四年の五月には、長岡城が落城します。この間にも吉田あたりでは、「打ち壊し」などもあり、相当な騒ぎになつたようです。そして、慶応四年九月八日に元号が

令和六年度は、慶応から明治に改められます。そと活動を行うことができました。ありがとうございました。

二階で、惕軒先生が関わり、小学校が誕生するのであります。当時、栗生津百六十一戸、下栗生津百四十六戸、高木五十八戸、上河原十六戸、野本二十四戸、田中二十五戸、平井新田二十一戸でした。明治二十一年には、これらが合併して栗生津村となりました。

長善館を経営して、文臺先生が

んな中で、明治六年四月、長善館に入門し、その後、地蔵堂の南画家・富取芳齋のもとで七年間、長崎へ行つて守山湘瓢に四年間南画を学びました。この書画は、作者の恩師惕軒先生が還暦を迎えた折に、そのお祝いとして湘江が書いて贈ったものです。掛軸には、長寿を授けるという南極星の精「寿老人」が描かれ、さらに七言の漢詩が添えられています。

江戸末期・明治初期の混乱の時代にあります。

▲ 諸橋湘江筆 寿老人

# 長善館 友の会会報

令和7年3月31日  
第6号



友の会会長

小原秀一

## 混乱の時代を生きた長善館

「長善館友の会」では、収蔵史料解説学習会を令和六年十二月七日(土)に開催しました。今回は、長善館の門下生諸橋湘江の描いた書画幅「寿老人」を取り上げて、解説を加えながら参加者全員で鑑賞しました。

作者・諸橋湘江は、中之島の生まれで名前を涼作といい、二歳、西越村柿木の諸橋家の養女となりました。明治二年(一八六九年)十一歳の時、弟大

竹貫一(衆議院議員)と共に長善館に

入門し、その後、地蔵堂の南画家・富

取芳齋のもとで七年間、長崎へ行つて

守山湘瓢に四年間南画を学びました。

この書画は、作者の恩師惕軒先生が

還暦を迎えた折に、そのお祝いとして

湘江が書いて贈ったものです。掛軸に

は、長寿を授けるという南極星の精「寿

老人」が描かれ、さらに七言の漢詩が

添えられています。

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

### — 訳 —

天の神への焼香の火には、しみじみと感慨深いものがある。南極星は、今でも明るく輝いている。徳の高い立派な惕軒先生は、明るく温かい人柄で意志が強く、たいへん長寿な方でおられる。さらに、昼が一番長い夏至の日にしたがつて長生きされることをお祝いします。明治二十九年丙申の年の春分の後のある日、この絵をもやのかかつた養寿山房で書き写し、少しばかり鈴木先生の六十一歳の還暦をつつしんでお祝いします。

門下生 湘江涼

## 長善館史料館収蔵資料 解説学習会

「長善館友の会」では、収蔵史料解説学習会を開催します。

### — 読み —

洞天の香火情に勝えず 南極今に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年の寿あり 更に長至に従つて長生を祝う 明治二十九年丙申の歳春分の後の一日此の図を雲煙の養寿山房に於いて写し以つて聊か鈴木老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

洞天の香火情に勝えず 南極今

に夜々明らかなり 聖主陽剛萬年

の寿あり 更に長至に従つて長生

を祝う 明治二十九年丙申の歳春

分の後の一日此の図を雲煙の養寿

山房に於いて写し以つて聊か鈴木

老先生の六十の初度を奉祝す。

門生 湘江諒

## 〈視察研修会①〉 —長善館と寺泊のつながりをたどる旅—

高橋智文

### 1. 牧ヶ花

最初に牧ヶ花の解良亮一氏のお宅を訪ねました。解良氏は初代新八郎が黒滝城主山岸氏の家臣であり、牧ヶ花の開拓をして十代になるという由緒ある家です。良寛さまと親しい関係で『良寛禪師奇話』という書を残しています。自分はその分家だといいます。

解良家には、「天上大風」という良寛さんの刷に書かれていた有名な書があります。その読み方は「てんじょうたいふう」、「てんじょうおかぜ」、「てんじょうだいふう」の三種類がありますが、この書は長善館の庭の石碑に刻まれています。

また、「良寛の健忘症」として良寛さんが忘れものが多いため、持参するものを書いたメモの話があります。これは栗生津の鈴木桐軒の家に残されている話で、良寛死後、『青山帖』として残されています。

鈴木桐軒と良寛さんの関係は、医者と患者の関係があります。良寛さんの長寿の秘訣は医者と仲がよかつたことです。ひと夏に体調を崩した良寛さんはその体調を見てもらい、処方された薬のお陰で良くなつたという漢詩が残されています。

### 2. 寺泊聚感園

寺泊観光協会ガイドの鳴海忠夫氏の解説を聞きながら見学しました。この公園は屋号菊屋という五十嵐氏の屋敷跡で、戊辰戦争後、五十嵐氏が絶えて公園になつたといいます。

その五十嵐伊織氏の墓がこの上にあります。尊王攘夷仲間の柳下安太郎が、明治三年に彼の遺言に沿って隣の墓を建てました。

この野崎については『拜恩余香』

の能登半島沖地震で崩壊してしまいました。

さらに山道を進むと十二神社があります。ここが、鈴木文臺先生が寺泊で開塾したところで、その前は軍の駐留所でした。

### 3. 寺泊聖徳寺

現在の住職のお話によりますと、この聖徳寺は浄土真宗仏光派の寺院です。現在の住職で十七代になりました。その眼目は長善館の館主となり、十二代住職は長善館に入門して尊王攘夷に傾倒し、戊辰戦争では官軍方の一員として参加しています。その石碑を見ると、戊辰戦争中は「野崎大蔵」と名乗っていました。当時のリスト名は別号を使つていました。高橋竹之介も「北山信」などと称していました。居之隊のことを書いた『越後草莽維新史』(田中惣五郎著)によつても寺泊を中心には前が上がつています。脇屋式部(中之島大口の出で長崎氏、医者)、柳下安兵衛、外山友之輔などがあり

によつて発行された漢詩漢文集に出ています。それによると、山形県の角間川の合戦の時に戦死したことが分かっています。聖徳寺では塙沢円一となっています。

### 4. 野積の南泉院

当山の開基は禪長法印です。黒滝城の祈願所として始まり、野積浜に永禄元年(一五五八)に転じました。その眼目は長善館の館主となられた鈴木文臺先生が、この南泉院で若いころ一夏を過ごされ、六首の七言絶句の漢詩を作られました。



▲南泉院の見学

南泉精舍寓居の作

青山 空裡の寺に周遭す／海風

快に吹き秋涼を送る／雲晴れて

千里の潮は掌の如し／佐土の嶺

峰一望に竭る

(長善館史料館館長积文)

お茶を頂きながら紅葉で赤く染  
まつた窓から山容を眺めていまし  
た。昔から佐渡がよく見えたよう  
です。

良寛が南泉院の院号にちなみ、  
「南泉」と題する漢詩を、さらに  
文臺先生は一八二三年の初夏に  
十七世良盛による滞留の後、牧ヶ  
花の觀照寺で塾を開き、一八八三年に長善館を開塾されたそうです。

## 5. 五千石の勝敬寺

当寺に深く関係している高橋泥舟の書や書簡などが数多くあります  
が、それについては読解もまだ  
出来ていよいよでした。当寺か

らは、千石学と千石徹が長善館へ  
勉強に行っており、同期入塾をし  
た中之島杉之森の高橋竹之介と交  
流があります。戊辰戦争当時は千  
石氏を名乗っていました。

この二人は先年出された『高橋

竹之介関係資料 誠意塾居之隊』に

千石隼人と千石学として出ていま

す。竹之介の長善館入塾は文久二

年（一八六二）です。その翌年七

月に彼は西国に調査に赴いていま

す。同時期に千石徹が入塾してい

ます。千石学（当時十一歳）、鈴

木僧隆（当時七歳）が長善館に入

塾しています。

今回調べた竹之介からの手紙は

明治二十九年に竹之介の誠意塾に、

勝敬寺の鈴木啓基が入塾し、その

時に竹之介から入塾のことについ

て三点のことを約束するという手

紙でした。二月六日付でした。

このように幕末から明治期にか

けて活躍した人達が、自分の先祖

だとと思うと、その事績の調査を継  
続していることも理解することが  
出来ます。

雨の中、役員をはじめ関係者の

皆様のお陰で充実したものとなり  
ました。今後の調査報告が待たれ

ることになります。大変ご苦労さ

までした。地元長岡市中之島地域

の偉人高橋竹之介の調査が出来た

ことは得がたいことでした。

## 〈視察研修会②〉 「長善館」との出会い

串 田 修 平

十年前の事である。教員である

妻の赴任地中之口東小学校での

在任中、中之口出身の先人「第

三十六代横綱羽黒山政司」の生誕

百年記念事業が地元先人館で開催

されていました。そこで、中之口

は言うに及ばず、西蒲原地域の町

村長や代議士、県議等名士達が幕

末、明治期に長善館で学んだ事を

知り感銘を受けました。是非一度

長善館を訪ねてみたいと思い続け

ていました。

平成の終わり頃、その機会を得

て感動した次第です。北越の松下

史料館となっていました。初代塾

長の鈴木文臺は、僧良寛に見い出

され親交があつた事が分かり一層

親近感が沸きました。と言うのは、

私が学生の頃、新大教養部で、良寛

研究で知られる故渡辺秀英教授か

ら良寛の講議をよく聴かされたか

「裏を見せ、表を見せて、散るも  
みじ」—良寛—

視察研修会の行程は、解良家分

家—聚感園（寺泊）—聖徳寺（寺泊）

—昼食—南泉院（野積）—勝敬寺（分

水地藏堂）といづれも歴史と伝統

を感じさせる史跡旧蹟であり、歴

史の奥深さを感じました。以下行

程順に若干の感想を述べます。

○解良家住宅にて解良良一氏より

良寛と鈴木文臺の兄桐軒（医者）

との交流話の講話があり、良寛

の健忘症の話や「天上大風」の

解釈等を学びました。

○聚感園（寺泊）にて五十嵐家（菊

屋）の故事来歴を聞き、感銘を

受けました。源義経主従の滞在

や順徳上皇の逗留等史蹟として

の価値が満載でした。



▲聖徳寺の見学

◎樂波亭跡—最初の鈴木文臺による塾

◎聖徳寺（寺泊）住職の先祖・満澤円一は幕末に長善館で学び尊皇讓夷運動家として戊辰戦争の際に方義隊（居之隊）を結成し転戦した。

◎南泉院（野積）鈴木文臺との交流、逗留の歴史あり。

◎勝敬寺（分水地蔵堂）千石徹・千石学兄弟は、文臺長善館の門下生であり、居之隊の結成に参加し、明治維新に活躍した。

結びに、「縁は異なるもの不思議なもの」先週訪問した、寺泊の聖徳寺住職が我家にお出でになつたので、驚きました。旧中蒲原郡大江山村松山の「高森山真光寺」住職に代つて旧中蒲原郡横越村藤山の「お経講」に来られたのです。本当にビックリしました。

今年の「お経講」の宿が、我家串田家の座敷だった事から、この再会が実現したのです。万分为の確率としか言いようがありません。これぞ「仏のお導きか」と驚くばかりです。合掌

## ●長善館小話●

教師鈴木鹿之介の号

### 「柿園の名前の由来」

長善館の庭園には、多くの種類の木が植えられていたが、鈴木虎雄の「園木雑誌」には、柿の木についての漢詩がある。

「北庭の老柿四三圍<sup>い</sup>にあり、秋晚果

らす、大兄借りて号す意尤微<sup>ゆうび</sup>なり」（北

側の庭の周囲に古い柿の木があり、奥手の果実の赤い色が白い扉に映つて見える。柿の実の味は渋く、一般の人からは賞味されなかつた。兄の柿園が

この柿の名前を借りて号にした。その

思いは、とりわけ目立ちたくないとい

うことであつた。柿園という号は、こ

の柿の木に由来している。柿園は控え目で温和な人柄であつたという。柿園

は、長善館で学んだあと、上京して啓蒙思想家・中村敬宇に学び、帰郷し、

漢学科英学科数学科を備えた近代的な学校として発展していった。柿園の授業は、若者の大きな志を鼓舞し、五年

のカリキュラムの修了を待たずに上京する生徒も現れ、桂湖村、小柳司氣太、

鈴木虎雄らも上京していったのです。

## 偉人マンガ・絵本・小説販売中!!

長善館初代館主鈴木文臺の生涯が描かれた「偉人マンガ 鈴木文台」のほか、大河津分水建設に至るまでの長善館門下生の活躍を描いた小説、文台と動物たちの物語を描いた絵本が販売中です。

### 〈販売場所〉

燕市中央公民館、  
燕図書館、吉田  
図書館、燕市役  
所売店



今年度は、通常通りの活動に加え、初めて体験教室「旧漢字のハンドコづくり」を開催しました。来年度も、会員の皆様が楽しみながら学べる企画を考えています。そこで、ご参加いただければ幸いです。

また、長善館史料館でも様々な企画展がございます。多くの皆さまのご来館をお待ちしております。

## 編集後記



☎ 0256-931-5400  
年齢・市内外問  
わざ誰でも大歓迎  
です。入会に関する  
詳細は長善館友の会  
の会事務局まで。

●一般印刷・名刺・はがき・封筒・書籍・刊行物  
長善館友の会  
は、随時会員を募  
集しています。  
年会費は、個人  
会員五〇〇円・事  
業所会員は一、〇  
〇〇円です。

**真滝プリント**  
〒959-0242 新潟県燕市吉田大保町 2-13  
TEL. 0256-92-7820



### ▶体験教室「ハンドコづくり」

発行 長善館友の会

事務局 燕市長善館史料館内

〒九五九一〇三七  
新潟県燕市粟生津九七番地  
電話 〇二五六一九三一五四〇〇